

〔奥儀抄 中ノ下〕文集云、中有三神山、山上多生不死藥、又云蓬萊、古今但聞名、この心也、

〔拾遺和歌集別〕みちのくにかみこれともがまかりくだりけるに、彈正のみこ○花山皇子のか

戒秀法師

うやくつかはしけるに、
かめ山にいくくすりのみありければと、むるかたもなきわかれかな

〔奥儀抄 中ノ上〕かめ山とよめるは蓬萊也、かめの背にある山なればなり、

〔八代集抄 十六〕いくくすりは不死藥なり、白氏文集に、山上多生不死藥云々、生藥を往と云にそ

へて、と、むるかたもなしとよめり、

〔竹取物語〕中將人々引ぐして歸りまいりて、かぐや姫をえた、かひと、めすなりぬることを、こまごまとそうす、藥のつぼに御ふみそへてまいらす、ひろげて御覽じて、いといたくおはれがらせたまひて、ものもきこしめさず、御あそびなどもなかりけり、大じむかんたちめをめて、いづれの山か、てんじちかきとはせ給ふに、ある人そうす、するがの國にあるなるやまなん、此みやこもちかく、天もちかくはむべるとそうす、これをきかせ給ひて、

逢事もなみだにうかぶわが身にはしなぬくすりもなに、かはせむ、かのたてまつるふしの藥に、またつぼぐして御つかひにたまはず、ちよくしには、月のいはかさといふ人をめて、するがの國にあなる山のいたゞきにもてつくべきよしおほせ給ふ、岑にてすべきやうをしへさせ給ふ、御ふみ、ふしのくすりのつぼならべて、火をつけてもやすべきよしおほせ給ふ、そのよしうけたまはりて、つはものどもあまたぐして、山へのぼりけるよりなむ、そのやまをふしのやまとなづけける、そのけぶりいまだ雲の中へたちのぼるとぞいひつたへたる、

〔今昔物語 二十〕女人依心風流得感應成仙語第四十二

今昔大和國宇陀ノ郡ニ住ム女人有ケリ、○中其女遂ニ心直ナル故ニ、神仙此レヲ哀ビテ神仙ニ